

令和2年1月17日

久留米市議会議長 永田 一伸 様

経済常任委員長 原 学

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 令和元年11月5日（火）～7日（木）
- 2 派 遣 先 青森県十和田市：十和田市中心市街地活性化基本計画について
及び内容 岩手県一関市：食と農の景勝地「もち食文化」（インバウンド需要を呼び
込むための観光政策）の取り組みについて
- 3 派遣委員 委員長 原 学
副委員長 森崎 巨樹
委 員 小林ときこ 南島 成司 山田 貴生 原口 和人
市川 廣一 石井 俊一 田中 功一
- 4 報 告 書 視察報告書のとおり
- 5 そ の 他 随行 山根 尚人

視察報告書

委員会名	経済常任委員会
視察日時	令和元年 11 月 6 日（水） 午前 9 時 30 分 ～ 午前 11 時 30 分
視察先・概要	青森県十和田市 人口：約 6 万 1 千人 面積：725.65 k m ²
視察内容	十和田市中心市街地活性化基本計画について
選定理由	「市民の暮らしを支え、人々が集い・活動する中心市街地を目指して」を基本理念に掲げている取り組みを、本市における中心市街地活性化に関する施策の参考とするため。
調査概要	十和田市議会にて、野月副議長の挨拶に引き続き、農林商工部商工観光課 今課長、鳥谷係長から、「十和田市中心市街地活性化基本計画について」の説明を聴取し、質疑応答を行った。
調査内容	<p>十和田市は、現代美術館や十和田湖、奥入瀬溪流などの観光資源を有しているものの、中心地の人口減少や郊外の大型商業施設がオープンしたことにより中心市街地の衰退と空き店舗率の増加が進んでいるため、第 1 期計画に引き続き、平成 31 年 4 月から 5 年間となる第 2 期十和田市中心市街地活性化基本計画を策定した。本計画では、観光客及び住民が商店街を中心とした市街地を回遊するための取り組みとして、現代アートを活用し美術館と一体となったまちづくりを進める以下の事業等を基本計画に掲げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）地域交流センター整備事業 商店街に現代アートを中心とした市民交流の拠点となる多用途施設を整備する。 ・交通拠点整備事業 路線バス・高速バス・タクシーなどが集まり、観光案内機能を備えたバスターミナルを整備する。 ・商店街活性化支援事業 商店街連合会・商工会議所が主体となり、中心市街地の空き地や多目的スペース等を活用したアート作品の展示・販売など、各種イベントの支援や情報発信強化を図る。 ・創業支援等空き店舗等活用事業 空き店舗・空き事務所・空き住宅を活用して事業を開始する場合に、改修等

に係る経費の一部を補助する。



<視察の様子：十和田市>

主な質問・
応答

問：現代アートに力を入れたきっかけを伺いたい。

答：かつてから文化団体が、空間価値を高めるために市民の作品展示に取り組んでおり、野外芸術文化ゾーンを設置する計画があった。「芸術」という枠の中で、現代アートとは、「価値が減らず、ユニークな資源で他にない取り組みである」との意見から導入を決めた。美術館オープン後の主な観光客は外国人や若者である。ほかに、建物の設計者が有名な建築家・隈研吾氏であり建築関係者も多い。

また、現代アートへの取り組みが評価され、宿泊施設が多く進出してきたと考えている。

問：創業支援等空き店舗等活用事業の実績について伺いたい。

答：平成 28 年度が 4 件、同 29 年度が 3 件、同 30 年度が 8 件、今年度が 11 月 5 日時点で 4 件の申請となっている。市外からの転入者には補助額の高い制度であり、Uターンによる創業者が多い傾向にある。現時点では申請者全員が事業を継続している。

問：美術館前の通りから商店街へ回遊させる仕掛けを伺いたい。

答：商店街と芸術家の交流を考えている。商店街にそのスペースをふやし、観光客が回遊する仕組みを作りたい。

問：周辺観光地と市街地を回遊してもらう仕組みは。

答：新幹線を利用する観光客が路線バスを利用して立ち寄ってもらえる取り組みを行っている。今後は冬季の観光に焦点を当てたメニューの開発に力を入れていきたいと考えている。市街地循環バス運行事業を活用し、市民だけでなく観光客も中心市街地へ来てもらえるよう取り組みたい。また、新たに設立するDMOを取り組みの中で活用していきたいと考えている。



<集合写真：議場にて>

その他（意見・感想）

観光資源を活用した商店街の活性化を図ることで、中心市街地全体が観光地となるまちづくりに取り組んでいる。期間限定のイベントだけではなく、常設の現代アートを点在させることがその特色を生かした有効的な施策であると感じた。

久留米市はシティプラザと商店街を中心とした官民連携型のさまざまなイベントを実施している。十和田市のような、地域の特色を生かした空間形成の取り組みを、本市における中心市街地のにぎわいを創出するための施策の参考としたい。

視察報告書

委員会名	経済常任委員会
視察日時	令和元年 11 月 7 日 (木) 午前 9 時 30 分 ~ 午前 11 時
視察先・概要	岩手県一関市 人口：約 11 万 6 千人 面積：1256.42 k m ²
視察内容	食と農の景勝地「もち食文化」(インバウンド需要を呼び込むための観光政策)の取り組みについて
選定理由	農林水産省から、「食と農の景勝地」として認定された一関市の「もち食文化」という文化資源を生かしインバウンド需要を呼び込むための観光施策を、本市におけるインバウンドを推進する施策の参考とするため。
調査概要	一関市議会にて、槻山議長の挨拶に引き続き、商工労働部観光物産課藤倉課長から、「食と農の景勝地「もち食文化」(インバウンド需要を呼び込むための観光政策)の取り組みについて」の説明を聴取し、質疑応答を行った。
調査内容	<p>一関市は、農林水産省が創設した、地域の食とそれを生み出す農林水産業を核として訪日外国人の誘致を図る「食と農の景勝地」として、第1回となる平成 28 年度に隣接する平泉町と一体となり認定を受けた。もち食文化は約 400 年前に藩政時代の儀礼として数種類のもちを食す「もち本膳」に由来し、現在約 300 種類の創作もちが存在する。</p> <p>主な取り組みとしては、平泉町と連携した外国人観光客をターゲットにした農泊を含む体験型となるツアーメニューの開発や、全国ご当地もちサミット等のイベント開催、映画作成などを実施している。また、多言語対応ガイドブックの作成、出前授業等を通じた住民に対する文化の伝承活動と理解の醸成、宿泊施設の整備、飲食・観光施設の多言語化、W i - f i 環境の整備などにより受け入れ態勢を整えている。</p> <p>今後の取り組みとしては、オフィシャルトラベルアドバイザーによる情報発信の強化、海外輸出の可能な外国人の嗜好に沿うもちの開発・研究、DMOを活用した情報の収集・発信のさらなる充実を行っていくとの事であった。</p>

<p>主な質問・応答</p>	<p>問：インバウンド誘致の施策には、「観る」、「食べる」、「買う」の充実が必要と考えている。その中での「買う」についての取り組みを伺いたい。</p> <p>答：平泉町と連携し、五感市（ごかんいち）という市内にある伝統工芸品の生産工場を開放するイベントを実施しているが、ここで販売される商品をインバウンド需要に対応するようにPRしていきたいと考えている。</p> <p>問：統廃合した後の空き校舎を観光資源とした例はあるか。</p> <p>答：現在利用している空き校舎が2件ある。1件目は、校舎をハンバーグやメンチカツなどの食品加工工場として利用しており、製品を特産品として販売している。2件目は、校舎に文化的価値の高い全長119メートルの渡り廊下を備えており、雑巾がけレースなどを企画して観光地兼イベント開催地として活用している。</p> <p>問：外国人観光客の人数把握はどのように行っているか。</p> <p>答：宿泊施設に協力を依頼し、宿泊者名簿に記載のある外国人観光客の把握をしている。また、旅行代理店に協力していただきツアー客数を把握するなど、関係企業の協力を得ている。そのため、立ち寄りによる個人客の人数は把握していない。</p> <p>問：輸出に関する取り組みの現状を伺いたい。</p> <p>答：輸出に必要な検疫に関する知識などの取得に向けた勉強会などを実施している。また、本市への外国人旅行者として最も多い台湾やベトナムなどのもちに対する嗜好や輸出コストの研究を行っている。輸出は通常販売に対し10倍近いコストが必要となるため、ブランド化に向けた取り組みが必要課題と考えている。</p> <p>問：台湾からの観光客のうち、リピーターとなった人の理由を伺いたい。</p> <p>答：団体旅行観光客として初めて訪れた際に魅力的だと感じてもらったことで、2回目以降に個人旅行で訪れるようになる方が多い。東北地方は台湾の開発に貢献した後藤新平の出身地であることから、台湾の方々には東北に愛着を持つ人も多く、本市を訪れる要因の一つになっていると考えてい</p>
----------------	---

る。

また、訪日のきっかけとなるツアーを企画する旅行会社の誘致を、宿泊施設・交通機関・飲食店と連携し、一丸となって取り組んでいる。このことが相手に好印象を与えることになり、旅行会社間で評判が広がり、別の旅行会社とも接触できるようになった。



<集合写真：一関市役所玄関にて>

その他（意見・感想）

近年、外国人観光客が増加する中、SNSなどによる情報発信サービスを利用した旅行客間での口コミが大きな影響をもたらすことから、リピーターを呼び込む施策を強化していくことがインバウンドを推進する取り組みとして効果的であると感じた。

また、一関市が実施する、もち食文化を応用し外国人観光客の嗜好に沿ったサービスや商品開発、食文化における農業者との連携などについては有効的であると感じる点が多く、今後の本市におけるインバウンド施策の推進においても参考にしたい。